



# クラスルーム トレーナー試験 受験の手引き

試験番号 : TKO-202

## 目次

クラスルームトレーナー認定試験（パフォーマンス・ベースド・テスト）	3
録画のプランニング、作成、提出	3
クラスルームトレーナーのパフォーマンス・ベースド・テスト録画プランニング	3
クラスルームトレーナーの録画作成	4
合格するセッション録画準備のポイント	8
パフォーマンス・ベースド・テストの提出フォーム準備	8
録画ファイルと提出フォームの採点要領	9
スコアリングガイド	10
パフォーマンス・ベースド・テスト録画の品質管理チェックリスト	22
パフォーマンス・ベースド・テストのリテイクポリシー	23
資格の更新	23
リテイクポリシー	23
認定資格試験実施ポリシー	23

# クラスルームトレーナー認定試験 (パフォーマンス・ベースド・テスト) 録画のプランニング、作成、提出

CompTIA CTT+ 認定資格試験を受験される方は、最初に CTT+ Essentials 試験（オンライン実施）に合格することが必要です。合格後、クラスルームトレーニングセッションを録画、提出していただき、その内容が審査・採点されます（CompTIA CTT+ TK0-202）。

## クラスルームトレーナーのパフォーマンス・ベースド・テスト録画プランニング

CompTIA CTT+ のパフォーマンス・ベースド・テストは、受験者のトレーニングスキルを実演していただくためのものです。セッションの内容は十分プランニングして、規定されたスキルがすべて実践できるようにしてください。提出していただく録画を準備する際には、以下の点に留意してください。

### 内容

多くの業界で通用する CompTIA CTT+ の認定資格には、一貫性・信頼性の高い認定基準の確立と維持が重要です。規定されたすべてのスキルについて受験者のパフォーマンスを適正に採点できるようにするため、トレーニングセッションの講習内容には業務との関連性が明確なものを選び、難易度や範囲もふさわしいレベルに設定してください。

### 構成

パフォーマンス・ベースド・テストは、12 の規定されたスキルすべてについて受験者のパフォーマンスが評価できる構成にしてください。講習は、「起・承・結」が明確なひとつながりのモジュールとして実施してください。長い講座の一部をモジュールとして提出していただくこともできますが、そのモジュール単体の目的も明確に示してください。長い講座の一部を提出する場合は、全体の中のモジュールの位置づけがわかる情報を必ず入れてください。1つのファイルに、複数のトレーナーによる講習を混在させないでください。

### 設定

講習は、静かで十分明るい部屋を選んで行き、ビデオカメラが音声を明瞭に録音し、使用する教育媒体などの教材、インストラクターの動き、教室内のやりとりがはっきり録画することができるようにしてください。

### 受講者

録画には、少なくとも 5 人の成人受講者が登場するようにしてください。カメラは時おり教室の全景がわかるように移動させて、採点委員が受講者の存在や教室内のやりとりを確認できるようにしてください。

### 臨場性

講習は、可能な限り実際の状況に近い形で行い、受講者には、扱っている知識やスキルを実際に学んでもらってください。状況が不自然であったり、作為的な印象を与えるものであったりする場合、インストラクターの信頼性が損なわれる場合もあります。

### 長さ

講習は最短で 17 分、最長で 22 分までとします。長さが 17 分に満たない場合、そのセッションは審査対象外となります。22 分を超過する場合、審査は行われますが、開始から 22 分が経過したところで採点委員の視聴は打ち切られます。

### 記録メディアとファイルの形式

提出用ファイルの形式は、MP4、MOV、AVI、MKV、M4V のいずれかに限ります。提出は、オンラインアップロードまたは郵送のいずれかの方法で行ってください。詳しくは、本書「録画ファイルとフォームの提出」を参照してください。

### 機材

撮影機材は高性能のものを使用し、良好な品質の録画ができるようにしてください。講習会場の学校などには、室内での撮影用機材や撮影の手助けができる経験豊富なスタッフが揃っているところもあります。しかし、受験者が個人で機材を調達しなければならない場合もあります。手持ち式のビデオカメラにも、十分な高画質で撮影できる機種も数多くあります。

## 編集

記録データの編集は一切行ってはいけません。CompTIA CTT+ 資格認定プログラムで「編集」とは、録画の一部を削除したり繋ぎ直したりする行為を意味します。ただし、インストラクター役を務める受験者は、セッションの途中で一度だけ、受講者が学習したスキルを練習する間の録画を一時停止することができます。また、特別な事情がある場合には、再度の一時停止が認められる場合もあります。例えば、実習のために受講者が別室に移動することが必要な場合などがこれにあたります。録画を一時停止する場合は、停止前どのような練習かが十分にわかるようにしておき、再開は練習が終了する少し前からにすることで、流れがわかるようにしてください。講習の録画は、実施した通りの時間順を変えないようにしてください。

## スキル

講習の録画と添付文書は、本書に規定されたスキルを受験者が実践できることをわかりやすく証明できる内容になっていることが必要です。

## 確認

本書のスコアリングガイドを参照しながら、提出用に録画した講習を視聴して自己採点してください。

- これを見る採点委員に、規定されたスキルすべてを実践していることが確実に伝わる内容になっていますか？
- 受講者が映っていますか？
- 視覚教材の見やすさとわかりやすさは十分ですか？
- 画質は鮮明ですか？
- 音質は明瞭ですか？

## クラスルームトレーナーの録画作成

CompTIA CTT+ 資格認定プログラムでは、規定されたスキルを受験者が十分に実践できる限りにおいて、録画するトレーニングの種類、プレゼンテーションの方法、使用するメディアの種類や講習の手法などを柔軟に選ぶことができます。

講習の模様を無編集で記録するため、録画の作成にあたっては入念なプランニングを行ってください。ただ講習の中から 20 分間を録画するだけでは、必ずしも規定されたスキルを十分に実践できることの証明にはなりません。

講習のアウトラインを準備して、何回かリハーサルを行ってから録画するようにすると効果的でしょう。数回にわたって講習を録画し、それらの中から、CompTIA CTT+ クラスルームトレーナーのパフォーマンス・ベースド・テスト・スコアリングガイドに沿って最もパフォーマンスが良好なものを選び出すという方法もあります。自己採点にあたっては、CompTIA CTT+ スコアリングガイドを使用し、規定のスキルを実践できる能力が録画から明確に見て取れるかどうかを確認してください。

### 1. 規定のスキルすべてを十分に実践する

規定のスキルとして挙げられている項目の多くは、互いに関連しています。受験者のパフォーマンスは規定のスキルごとに採点されますが、同一の行動から複数のスキルが評価されることもあります。合格するためには、証明したいスキルを脈絡なく並べた講習ではなく、自然な流れの一貫したセッションを組み立てることが重要です。

\*注意事項：パフォーマンス・ベースド・テストの提出フォーム（フォーム A~D）に、「トレーニングの中で受講者にグループ実習を課した」と記載されていても、録画の中にその模様が含まれていない場合は、実際に受講者とのやりとりが行われたとは認められません。

### 2. 受講者の主体性を引き出す（受動一辺倒ではない）講習（参加型学習）

採点委員は、講習を実施する受験者が内容を十分に理解しているかどうかよりも、受講者がその内容を理解できるよう効果的に支援しているかどうかを重視します。口頭での説明やデモを主体にしたトレーニングを実施する場合、受講者の主体的参加を促すとともに、講習内容を受講者がどの程度理解しているかを確認できる手段を織り込むことが必須となります。

### 3. 受講者の集中を持続させる

評価の高い講習動画とするためには、これからの20分間で学習する内容が受講者と採点委員にわかりやすく伝わるよう、冒頭で短い内容説明を行うことが効果的です。構成力とモチベーション作りのスキルを評価されるためには、講習のロードマップのようなものを用意して、これに沿った説明と受講者の理解が進むようにすることが必要です。ロードマップの説明には、図解と口頭のいずれを使ってもかまいません。また、簡単な説明で伝わる場合は特に強調する必要はありません。

モジュールの学習を時間内に完了しなければと、焦らないようにしましょう。そこまでに受講者が学んだ内容をもう一度整理するだけでも、トレーナーのスキルの証明としては十分な場合があります。さらに進んで、学んだ内容を受講者にまとめてもらえれば理想的でしょう。

### 4. 自然なトレーニングを

臨場性の問題に関しては、次のような疑問を持たれる方もいるでしょう。「特定の受講者にあらかじめ一定の行動や質問を頼んでおき、トレーニングが双方向で行われていることを示してもいいでしょうか？」このような行為は厳禁です。採点委員は、個別の場面よりも全体を通して規定のスキルがどれだけ実践されているかを見ています。

# クラスルームトレーナー認定試験 (パフォーマンス・ベースド・テスト)

## 提出フォームの作成

書き込み可能な提出フォームが、下のリンクからそれぞれダウンロードできます。ダウンロードしたファイルは、受験者のPCに保存してから必要事項を記入し、印刷して提出してください。

[https://www.comptia.jp/certif/additional\\_professional/comptia\\_ctt\\_pbt/](https://www.comptia.jp/certif/additional_professional/comptia_ctt_pbt/)

- ・ フォーム A - 受験者の CompTIA Career ID を記入してください（下記の注を参照）\*。
- ・ フォーム B（撮影使用承諾書） - 録画の中で撮影されている全員の氏名を記し、同意の署名を受けてください。
- ・ フォーム C（ドキュメンテーション・フォーム） - すべての質問への答えを記入してください。
- ・ フォーム D（支払フォーム） - 次のいずれかの支払情報を記入してください。
  - a. パウチャー番号：購入済みのパウチャーを使用する場合、ここにその番号を記入します。パウチャーはこちらで購入できます：<http://www.comptiastore.jp/>
  - b. PayPal：オンラインで提出する場合、PayPal による決済も可能です。PayPal アカウントからの決済、またはクレジットカードによる決済が選べます。PayPal を利用して支払う場合、支払フォームの一番下は記入不要です。
- ・ TK0-201 Essentials（コンピューター・ベースド・テスト）のスコアレポートのコピー（**原本は送らないでください。**）
- ・ 写真入りの公的身分証明書（運転免許証、パスポートなど）のコピー。社員証は無効です。

## \*CompTIA Career ID の取得方法：

インターネットで <https://login.comptia.org> にアクセスします。コンピューター・ベースド・テストのスコアレポートに記載されている情報の一部が必要になるため、お手元にご用意ください。画面の説明に従ってパスワードを設定し、ログインしてください。入力されている受験者情報を確認し、必要に応じて更新してください。この手順が完了すると、CompTIA Career ID が交付されます。Career ID は、「COMP」から始まる文字列です。

# クラスルームトレーナー認定試験 (パフォーマンス・ベースド・テスト)

## 録画ファイルとフォームの提出

受験者は、次の2通りの方法のいずれかを使って提出ができます。

### オプション1: オンラインアップロード (推奨)

提出フォームと録画ファイルを、Webサイト [cttsubmission.com](http://cttsubmission.com) からアップロードする方法です。サイトに記載された説明をよく読んで、正しくアップロードしてください。アップロードは、最初に提出フォーム、次に録画ファイルの順で行います。サイトを日本語で閲覧するには、右上より「日本語」をクリックしてください。

- ・ 提出フォームは、1つのPDFファイルにまとめてからアップロードしてください。
- ・ 録画ファイルは、MP4、MOV、AVI、MKV、M4Vのいずれかの形式にしてください。
- ・ アップロードできる録画ファイルの容量は1GB以内です。1GBより大きい場合はファイルを圧縮してください。お問い合わせは、[admin@CTTSubmission.com](mailto:admin@CTTSubmission.com) までメールでお寄せください。
- ・ アップロードが途中で寸断するリスクを避けるため、ファイルの提出には有線接続の利用をお勧めします。

### オプション2: 郵便/クーリエサービス\*

提出フォームを作成し、録画ファイルを準備して次のいずれかのメディアに保存します。

**CD** : CDに保存する録画ファイルは、MP4、MOV、AVI、MKV、M4Vのいずれかの形式にしてください。

**DVD** : 必ず「DVD-R」規格のディスクを使用してください。注意 : DVDに保存する場合、DVDプレイヤーまたはPCのDVD再生ソフトウェアによる再生が可能な動画形式にします。PCがなければ視聴できないプレーンメディアファイルの形でDVDに保存しないでください。DVDはリージョンフリーまたはリージョン1(北米)に設定してください。DVDから上記のファイル形式(MP4、MOV、AVI、MKV、M4V)への変換には、35ドルの変換手数料が加算されますのでご了承ください。

提出フォームと記録メディアを、下記の宛先に発送してください。

CTT+ Submission  
C/O Ingenuiti  
2876 Guardian Lane  
Virginia Beach, VA 23452 USA

郵便またはクーリエサービスで提出する場合、配達状況追跡サービスの利用を推奨します。

\*メディアに保存したファイルを郵便等で提出された場合、受付やファイルのアップロードなどの事務処理手数料として35ドルが加算されますのでご了承ください。また、動画ファイルを指定の形式に変換する必要が生じた場合、これとは別に35ドルの変換手数料が加算されます。

# クラスルームトレーナー認定試験 (パフォーマンス・ベースド・テスト)

## 合格するセッション録画準備のポイント

- ・提出用には、新品で使い回しではないビデオテープ・CD・DVDを使用してください。
- ・三脚を使用してください。手ぶれがある録画は、視聴の妨げになります。
- ・グラフィック、板書などは、はっきり読めるように撮影してください。肉眼では読める板書も、録画では読めなくなる場合があります。黒板やホワイトボードは、光の映り込みに注意してください。つや消しタイプの紙を貼ったものにマーカーで書くようにするとよいでしょう。
- ・カメラは1台だけにしてください。カメラを教室の横に据えると、受講者とインストラクターが両方撮影できます。
- ・撮影の途中でカメラを移動する場合は、ズームの倍率を最小に設定しておきます。これは、映像のふらつきを抑えるためです。
- ・照明を追加することで画質が改善できます。提出する録画を良好な画質に保つため、カメラのライトを使うことも検討してください。ただし、光源にカメラを向けないように注意してください。例えば、カーテンやブラインドを開けて撮影する場合は、窓を背にするようにカメラを設置しましょう。
- ・良好な音質の確保は録画で最も難しい要素の一つです。トレーナーと受講者の声を明瞭に録音することは非常に困難で、その場で人の耳に聞こえる声でも、録音されると聞き取れなくなることがあります。
- ・可能な限り、外付けマイクを装着しましょう。できない場合は、いつもより若干大きな声で話すようにするとよいでしょう。録音機能は何回かテストを行って、マイクの感度を確認しておきましょう。受講者には、大きな声で発言するように指示するか、インストラクター側で質問などを復唱するようにしましょう。インストラクターの音声収録用に外付けマイクを装着すると、録音の品質がよくなります。
- ・録音中は、空調・換気設備や室内の各種装置の運転を停止したりする工夫も考えてみましょう。屋外の車の走行音などの騒音が録音に混ざるのを防ぐためには、光を入れようと窓を開けることはやめた方がよい場合もあります。外付けマイク（カメラの内蔵マイクではなく）を使用すると外部からの騒音を低減することができます。
- ・講習を始める前に、録画が開始されていることを確認しましょう。開始後の数秒間が録画されていないと、重要な情報が損なわれる原因にもなります。

**注意：提出する録画ファイルは、必ずバックアップを保存しておきましょう。**録画ファイルの紛失や破損はめったに起こりませんが、万一の場合に備えて、いつでもバックアップを提出できるようにしておくことが重要です。CompTIAは、受験者から提出された録画メディアの返送には応じませんのでご了承ください。

## パフォーマンス・ベースド・テストの提出フォーム準備

記録フォームCを記入する際には、用紙を多めに準備しておき、回答を自由に練習したり修正したりしてから提出用のフォームを清書するようにすることをお勧めします。

録画ファイルと一緒に提出するフォームの書式に誤りがないか、受験者の方で入念に確認してください。クラスルームトレーナーの録画ファイルにはクラスルームトレーナー用のフォーム、バーチャルクラスルームトレーナーの録画ファイルにはバーチャルクラスルームトレーナー用のフォームの提出が必要です。2種類のテストには、それぞれ専用のフォームがあります。



# クラスルームトレーナー認定試験 (パフォーマンス・ベースド・テスト)

## 録画ファイルと提出フォームの採点要領

録画ファイルと提出フォームの審査は、CompTIAが任命した採点委員が行います。各採点委員は、規定のスキルを明確に証明する要素が含まれているかどうかをこのハンドブックの規定に基づいて評価し、採点を行います。受験者（インストラクター）が特定の行動を取った回数を数えるのではなく、セッション全体を通して受験者が規定のスキルをどれだけ実践し、それらを通じて講習そのもののニーズをどう満たしているかを評価します。

規定された12のスキルのパフォーマンスは、次の4段階で採点されます。

- 4 - 優れている
- 3 - 良い
- 2 - 限定的
- 1 - 著しく不完全

規定された各スキルの説明と4段階の採点指針は、スコアリングガイドの項を参照してください。

**規定された12のスキルのどれか、もしくは提出フォームのいずれかに「1（著しく不完全）」の評点がつくと、パフォーマンス・ベースド・テストの結果は自動的に不合格となります。**最初に審査を行った採点委員の評価結果次第で、録画がさらに複数の採点委員による審査を受ける場合もあります。それぞれの採点委員は、録画の視聴と採点を個別に行います。

## 録画と提出フォームの採点委員について

CompTIA CTT+の採点委員に起用されるためには、以下の3つの要件を満たすことが必要です。

1. インストラクターまたはプロのトレーナーとしての活動経験が豊富で、CompTIAの採点基準を習得している。
2. CompTIA CTT+のスコアリングワークショップを受講し、採点基準についての十分なトレーニングを受けていることに加え、年間を通じて資格保持のための研修に参加している。
3. CompTIA CTT+委員会が定める基準に従って、録画と提出フォームのサンプルを正確・公正に採点できる能力が証明されている。

CompTIA CTT+の採点委員は、人種構成や性別に偏りがないように配慮されています。また、トレーナーとしての専門も幅広い分野にわたっています。

各採点委員の採点実績と信頼性は、継続して統計的にモニタリングされています。採点結果の信頼性が十分でない採点委員には、追加のトレーニングが行われます。ただし、CompTIA CTT+認定資格の重要性に見合った信頼性が継続して規定水準に達していない委員は、CompTIA CTT+採点委員の資格を失います。

録画および提出フォームの受領後、事務処理と審査に2～3週間かかります。お問い合わせまたはご意見は、次のアドレスまでメールでお寄せください。[questions@CTTSubmission.com](mailto:questions@CTTSubmission.com)

# クラスルームトレーナー認定試験 (パフォーマンス・ベースド・テスト)

## スコアリングガイド

### ドメイン1: コースの事前準備

#### サブドメイン1A:

組織のニーズと受講生の背景を確認し、学習目標に関連付ける

#### スキル:

- ・ 学習内容に関連する他の情報を調べ、理解しにくい箇所やつまづきやすい箇所に対応する
- ・ 受講者の現在のスキルレベルを適切に評価し、受講前提となる要件を満たしているかを検討する
- ・ 学習を通じて組織内で特に求められる成果を検討する
- ・ 受講者ニーズの評価結果を学習目標との関連で分析する
- ・ オリジナルのコース設計を維持しながら、組織・受講者・状況・使用ツールによって異なるニーズに応じて教材を調整する

スコア	4	3	2	1
各スコアに該当する受験者のパフォーマンス例	<p>受講者の一人一人に丁寧な評価と詳しいコメントを提供している。</p> <p>学習目標を個々の受講者の知識やスキルレベルに結びつけ、ニーズ評価に基づくモジュールの修正を行っている。</p>	<p>受講者のニーズ評価を行い、結果を把握したという証拠を提供している。</p> <p>講習への修正点、または修正しないことが適切であると判断される理由を説明している。</p> <p>学習目標をニーズ評価の結果に結び付けている。</p>	<p>適切なニーズ評価をしたという証拠がほとんどあるいは全く見られない。</p> <p>学習目標をニーズ評価の結果に結び付けていない。</p>	<p>発言に無関係、不適切、または不正確な点がある。</p> <p>書類に不備がある。</p>

# クラスルームトレーナー認定試験 (パフォーマンス・ベースド・テスト)

## スコアリングガイド (続き)

### ドメイン1: コースの事前準備

#### サブドメイン1B:

学習効果を高める環境を築く

#### スキル:

- コース開始前に受講者に連絡する内容を整理する (例: コース案内、確認事項、コースの説明または内容、受講前提条件、事前課題、システムチェックの実行、サポート/ヘルプデスク情報、教材のダウンロード方法)
- 個別の受講者や組織のニーズに応じて、クラスルームまたはバーチャルクラスルームの設定を変更する
- コースの時間配分や必要な手配の確認 (例: 休憩時間の設定、食事の手配、実習室、教室外での活動、時差への対応)
- 学習に関連するツールや機器が適切に設定されて正常に動作すること、受講者側に予定されている活動 (例: 受講者各自での練習、オンラインツールの使用) が想定通りに行えることを確認する
- 安全な学習環境の確立 (例: 物理的環境、聴覚環境、チャット、同意書、クライアントの機密情報保護)
- クラスルーム、バーチャルクラスルームの両方において、学習環境が快適なものであることを受講者に確認する (例: 照明、音響、電話会議またはVoIP オーディオ、オンラインツールの動作確認)
- 不測の事態に備えた対応計画を準備する (例: 教室での避難訓練、接続の途絶、一部の受講者に講習内容が表示されないなど)

スコア	4	3	2	1
各スコアに該当する受験者のパフォーマンス例	室内の設定や機器の利用が学習成果や受講者のニーズにどのようにつながるかの説明が含まれている。	インストラクターが受講者のために適切な物理的環境作りを行ったことが示されている。	室内や機器の設定と、それらが適切に行われているかどうかを確認する手順についての説明が不十分。	発言に無関係、不適切、または不正確な点がある。  書類に不備がある。
	室内や機器の設定にインストラクターがどのように関わったかが詳しく説明されている。	室内や機器の設定が、講習用に整っているかどうかを確認する手順について説明されている。	受講者のニーズに応じた室内の設定を調整したことを示す証拠に乏しい。	
	コース開始前の資料に基づいて、受講者が直面する可能性がある問題の詳細な分析を行っている。	コース開始前の資料に基づいて、受講者側が持っていると思われる期待事項について説明している。	コース開始前の資料と、それらが講習計画にどんなインパクトを与えているかについての説明が乏しい。	

# クラスルームトレーナー認定試験 (パフォーマンス・ベースド・テスト)

## スコアリングガイド (続き)

### ドメイン 2: 教授法と教育媒体

#### サブドメイン 2A: トレーニング形式の選択と 実施

#### スキル:

- ・コースの作成者が意図する学習方法を使用する
- ・幅広い学習スタイルに対応するようにトレーニングを最適化する
- ・教材、受講者、状況に応じた複数のトレーニングテクニックを用いて受講者が興味深く学べるようにする
- ・様々な手法で学習内容を整理し、紹介する (例: 比較と対照、段階的な説明、長所と短所)
- ・コース目標に見合った学習アクティビティを決定し、実施する
- ・参加型のアクティビティでは受講者がスムーズに実行できているかを確認する
- ・適切な事例、デモ、関連するニュースや記事、スライド、逸話、ストーリー、比喩、ユーモアなどを交えながら、受講者の興味を喚起し、理解を高める
- ・適切な間合いで、受講者によるディスカッションや、学習内容の復習・応用に役立つアクティビティを取り入れる

スコア	4	3	2	1
各スコアに該当する受験者のパフォーマンス例	<p>一つの活動から次の活動へとスムーズに移行している。</p> <p>計画したアクティビティを通してさまざまな学習スタイルを扱う。</p> <p>逸話、ストーリー、比喩、ユーモアを効果的に使用している。</p>	<p>幅広い教授法を利用する。</p> <p>受講者の主体的参加を促進する意味のある活動を取り入れている。</p> <p>受講者それぞれの異なる学習スタイルを認識していることを示す。</p>	<p>限られた教授法しか利用しない。</p> <p>参加型の実習を行わない。</p>	<p>単一の教授法しか用いない。</p> <p>受講者の関心を引き付けていない。</p> <p>学習に関係ないアクティビティを行う。</p>

# クラスルームトレーナー認定試験 (パフォーマンス・ベースド・テスト)

## スコアリングガイド (続き)

### ドメイン 2: 教授法と教育媒体 (続き)

#### サブドメイン 2B:

プレゼンテーションおよび  
インストラクションのため  
の教育媒体の使用

#### スキル:

- ・学習目標を達成し、受講者のニーズに対応する各種媒体/ツールを使用する
- ・それぞれの媒体に関連した軽微な問題に対応する
- ・学習目標を達成するために、必要に応じて媒体の増強・交換・新規作成を行う

スコア	4	3	2	1
各スコアに該当する受験者のパフォーマンス例	幅広い媒体をスムーズに切り替えながら提示する。  さまざまな形式の媒体を上手に使用する。	少なくとも2種類の媒体(例: 小道具、配布物、ホワイトボード、ITなど)を適切に利用する。  1種類の媒体を非常に効果的に使用する。	媒体の使い方が不適切または不正確。	媒体を全く使用しない。

# クラスルームトレーナー認定試験 (パフォーマンス・ベースド・テスト)

## スコアリングガイド (続き)

### ドメイン3: インストラクターの信頼性とコミュニケーション

#### サブドメイン3A: インストラクターとしての 行動と知識を示す

#### スキル:

- すべての受講者に対し常に同じ態度で接する
- コース内容に対する自信と習熟度を示す
- 知識やスキルなどを職場で生かすための事例を受講者に示すだけでなく、受講者からも引き出す
- コース内容に関連する専門外のトピックに関する受講者の質問に適切に対処する
- 肯定的な雰囲気を保ち、他のトレーニングチームメンバーやトレーニング教材またはツールを批判しない

スコア	4	3	2	1
各スコアに該当する受験者のパフォーマンス例	<p>内容に関する専門知識を受講者の質問と関連付けて説明する。</p> <p>受講者の質問に対し、それぞれの受講者にとって身近な例を中心に、複数の具体例を挙げる。</p>	<p>ノートや教科書を参照することは少なく、受講者のアクティビティに関連がある場面に限って行う。</p> <p>関連のある例を挙げながら受講者の質問に効果的に答える。</p>	<p>講習を進める際にノートを頻繁に参照する。</p> <p>受講者の質問に対し、無関係または不適切な回答をする。</p>	<p>トレーニング教材をただ読み上げる。</p> <p>コース設計、他のトレーナー、組織、受講者本人などについて、否定的な意見を述べる。</p>

# クラスルームトレーナー認定試験 (パフォーマンス・ベースド・テスト)

## スコアリングガイド (続き)

### ドメイン3: インストラクターの信頼性とコミュニケーション (続き)

#### サブドメイン3B:

インストラクターとしての  
コミュニケーションスキル  
とプレゼンテーションスキ  
ルの使用

#### スキル:

- ・外国人受講者がいる可能性を考慮し、適切な速度で言葉を正確に発音し、正しい文法と構文を使用する
- ・抑揚を付ける、強調する、間を取るなどの方法で、重要な項目を明確に説明する
- ・差別的な言葉遣いや非言語コミュニケーションを避ける (例: 性別、人種、宗教、文化、年齢)
- ・ポインター、ボディランゲージ、抑揚の効果的な使用により、学習効果を高め、重要なポイントに注目を集める
- ・受講者の気を散らすような行動を極力避ける (例: 手で何かをいじる、ポケットの小銭を鳴らす、貧乏揺すりをする、せわしなく歩き回る、不必要にマウスを動かす、オーディオの背景雑音、キーボードの音)
- ・受講者の集中を妨げないように、ボディランゲージなどの非言語テクニックを効果的に使用する
- ・コース概要、系統図、セッションの要約を適宜使用し、受講者にセッションの方向性を示し学習の要点に結びつける

スコア	4	3	2	1
各スコアに該当する受験者のパフォーマンス例	<p>重要なポイントの説明や強調を自然によどみなく行う。</p> <p>学習上のポイントの切り替えに受講者が自然についてこられるようにする手法を活用する。</p> <p>ボディランゲージやアイコンタクトを適切に使用して、受講者の関心を引きつける。</p>	<p>コースの概要を説明する。ポイントを適切に要約する。</p> <p>伝える内容に応じて適切な立ち位置を取っている。</p>	<p>コース内容の流れをほとんど説明しない。</p> <p>新しいトピックへの移行に際し、ほとんどあるいは全く説明がない。</p> <p>じっとして動かない、またはボディランゲージの使い方が効果的でない。</p> <p>学習に支障をきたすような文法や語彙の誤りがある。</p>	<p>始めや結びの言葉のような、話の組み立てを示す用語を使用しない。</p> <p>コンピューター端末の前に座って動かない。</p> <p>不適切または粗野な言葉を使う。</p>

# クラスルームトレーナー認定試験 (パフォーマンス・ベースド・テスト)

## スコアリングガイド (続き)

### ドメイン4: グループの円滑化

#### サブドメイン4A:

受講者中心の環境作りと  
環境の維持

#### スキル:

- ・ 明るく前向きな雰囲気でのトレーニングを開始する
- ・ コース予定を受講者に説明する
- ・ コース設計に示されている受講者の到達目標を明確に説明する
- ・ 受講者の個人的な目標や期待を把握する
- ・ 学習目標と受講者の期待の間に相違がある場合は、相違を調整する
- ・ 学習を助け、設定された学習目標の達成に向けて集中できる環境を確立する
- ・ 偏見、ひいき、批判のない学習環境を作り、受講者全員の有意義な参加を促す
- ・ 学習者のニーズに基づいてコースの流れやペースを管理しながら、学習目標を確実に達成できるようにする
- ・ 受講者自身が短期・中期・長期の目標を把握して達成できるようにするための機会と支援を提供する
- ・ 各受講者の権利を尊重する交流を促し、本題から外れたら元に戻すなど、プラスのグループダイナミクスを引き出す
- ・ 個々の受講者に自信を付けさせるとともに、互いの協力と学び合いを通じて学習目標を達成できる機会を作る
- ・ 受講者の間にコースの方向性からそれる言動があれば、さりげなく軌道修正する

スコア	4	3	2	1
各スコアに該当する受験者のパフォーマンス例	<p>講習全体を通じ、アクティビティや内容が学習目標と明確に結びついている。</p> <p>全体を通して受講者が参加できるよう絶えず気を配っている。</p> <p>すべての受講者がグループの活動に参加できる機会を作る。</p> <p>学習目標の達成に向けて効果的にタイミングを測っている。</p> <p>講習の目標を伝えている。</p> <p>受講者を講習に参加させている。</p> <p>学習目標の達成に役立つアクティビティを利用している。</p>	<p>学習目標とアクティビティや内容を結びつけている。</p> <p>受講者が参加できるよう気を配っている。</p> <p>多くの受講者が貢献できる機会を作っている。</p> <p>講習の目標を伝えている。</p> <p>受講者を講習に参加させている。</p> <p>学習目標の達成に役立つアクティビティを少し利用している。</p>	<p>すべての受講者をアクティビティに参加させていない。</p> <p>講義が中心になっている。</p> <p>インストラクターによるデモンストレーションが中心になっている。</p> <p>時間の使い方が効果的でない。</p> <p>講習がほぼインストラクター主体で行われる。</p>	<p>学習目標が達成できていない。</p> <p>講習がすべてインストラクター主体で行われる。</p>



# クラスルームトレーナー認定試験 (パフォーマンス・ベースド・テスト)

## スコアリングガイド (続き)

### ドメイン4: グループの円滑化 (続き)

#### サブドメイン4B:

受講者の取り組みや参加意欲を促す

#### スキル:

- ・アクティブリスニングの技法で、受講者の発言を受け入れ、理解する
- ・様々な種類やレベルの質問を用いて、受講者の学習意欲や積極性を引き出し、学習の進捗を確認する
- ・質問を通じて、受講者が学習内容を振り返ったり応用したりするきっかけを作る
- ・質問を向ける相手を適切に振り分ける
- ・受講者がディスカッションに参加できる機会を作る
- ・受講者に自問自答を促すアクティビティを取り入れる

スコア	4	3	2	1
各スコアに該当する受験者のパフォーマンス例	<p>幅広いオープン質問を駆使して受講者から一言以上の答えを引き出す。</p> <p>受講者からの質問を出発点として、学習に役立つディスカッションに発展させる。</p> <p>掘り下げ質問を用いて、受講者にさらに考えるきっかけを与える。</p> <p>全ての受講者を参加させる。</p>	<p>オープン質問とクローズ質問を併用する。受講者が質問に回答しやすくなるよう、適切な間合いを置く。</p> <p>受講者が質問や回答をしやすい環境をつくる。</p> <p>アクティブリスニングの技法を実践する。</p>	<p>答えが「はい」か「いいえ」の質問しかない。</p> <p>学習内容にふれる質問をしない (例: 「わかりましたか」とだけ尋ねる)。</p> <p>受講者が質問に答える時間を与えない、または自身で質問に答えてしまう。</p>	<p>質問をしない。</p> <p>受講者が質問をする機会を与えない。</p> <p>受講者の質問や返答に、軽蔑、皮肉、否定的なニュアンスのコメントを返す。</p>

# クラスルームトレーナー認定試験 (パフォーマンス・ベースド・テスト)

## スコアリングガイド (続き)

### ドメイン4: グループの円滑化 (続き)

#### サブドメイン4C:

追加説明や励ましを必要とする受講者のニーズに応える

#### スキル:

- ・受講者の言語および非言語コミュニケーションを手がかりに、説明やフィードバックを必要とする受講者を見分け、確認する
- ・説明やフィードバックを必要とする受講者に対する回答の方法とタイミングを判断する
- ・受講者のニーズに見合ったフィードバックを与える
- ・インストラクターの応答が適切であるかどうか受講者からフィードバックを引き出す

スコア	4	3	2	1
各スコアに該当する受験者のパフォーマンス例	<p>受講者の行動に常に注意を払い、理解度を確認する。</p> <p>受講者が詳しい説明を必要とする箇所に明確に対応し、またそれらを予想している。</p> <p>受講者が内容をしっかり把握できない場合、別のアプローチから説明する。</p>	<p>受講者の質問にすばやく効果的に答える。</p> <p>受講者からより詳しい説明を求めることのできる機会を設ける。</p> <p>受講者から補足のあった説明を受け入れる。</p>	<p>受講者の質問にすばやく効果的に答えられていない。</p> <p>説明を求める受講者の発言を遮る。</p> <p>受講者が説明を求めたり意見を述べたりすることを奨励しない。</p>	<p>受講者を無視する。</p> <p>受講者からの質問を却下する。</p>

# クラスルームトレーナー認定試験 (パフォーマンス・ベースド・テスト)

## スコアリングガイド (続き)

### ドメイン4: グループの円滑化 (続き)

#### サブドメイン4D:

受講者の学習意欲の向上と強化

#### スキル:

- ・受講者を、本人および所属組織のニーズに応じた目標の達成に向けて励ます
- ・個々の受講者に応じた意欲の引き出し方を考え出し、適用する
- ・学習効果を強化するテクニックを計画し、トレーニングの中で使用する
- ・全体を通して、受講者の関心を惹きつけ、積極的な参加を促す

スコア	4	3	2	1
各スコアに該当する受験者のパフォーマンス例	<p>全体を通して、受講者、学習目標、組織の目標を結びつける。</p> <p>受講者の発言を取り上げ、講習を発展させるために活かす。</p> <p>受講者の意欲を引き出す幅広い手法を活用する。</p>	<p>受講者にディスカッションへの参加を促す。</p> <p>学習目標を関連する仕事への利用に結びつける。</p> <p>新しい学習内容を受講者の知識に結びつける。</p> <p>受講者の意見を適切に受けとめる。</p>	<p>すべての受講者の関心を引きつけていない。受講者にほとんど励ましを与えない。</p> <p>受講者の業績や組織のニーズにほとんど関連付けない。</p>	<p>意欲を引き出す手法を活用している様子が見られない。</p> <p>学習意欲を失わせる対応をする。</p>

# クラスルームトレーナー認定試験 (パフォーマンス・ベースド・テスト)

## スコアリングガイド (続き)

### ドメイン5: トレーニングの評価

#### サブドメイン5A:

トレーニングの全過程および終了時での受講者の達成度を評価する

#### スキル:

- ・ トレーニング中に受講者の進捗を観察する
- ・ 一般的な測定原則に基づいた適切な評価方法の開発、選択、および管理を行う
- ・ 受講者の知識・スキルの習得状況を示す客観的な情報と主観的な情報を収集する
- ・ 受講者の達成度を学習目標と比較する
- ・ 学習目標のよりよい達成につながる別のトレーニングやリソースを提案する

スコア	4	3	2	1
各スコアに該当する受験者のパフォーマンス例	<p>観察や質問、受講者の応答または意見をを通して、受講者を継続的に評価する。</p> <p>トレーニングの実施中に、複数の評価査定ツールを使用する。</p>	<p>質問やグループディスカッションを用いて、受講者による知識の習得度を測っている。</p> <p>評価の結果を生かしてそこから先の講習の内容を調整する。</p> <p>教室を回って、実習における各受講者の到達度を評価する。</p>	<p>受講者に習得した知識やスキルを実践させる機会をほとんど設けない。</p> <p>録画の中に、受講生が実習を正しく完了できている様子が映っていない。</p>	<p>受講生による知識の習得度を測っていない。</p>

# クラスルームトレーナー認定試験 (パフォーマンス・ベースド・テスト)

## スコアリングガイド (続き)

### ドメイン5: トレーニングの評価 (続き)

#### サブドメイン5B: インストラクターの能力と コースの評価

#### スキル:

- ・コースの途中で加えられた調整を含め、コース設計を評価する
- ・インストラクターとしてトレーニングの準備と実践を自己評価する
- ・トレーニングに対する外的要素の影響を評価する
- ・トレーニングの効果が学習目標に沿っていたかどうかを評価する
- ・評価結果を活用して、次のトレーニングのために自身の取り組み方の調整と改善を図る
- ・コース終了時点の情報をまとめ、報告書を作成する
- ・必要に応じて、既存の教材の改訂や変更、および新しいプログラムやトレーニングを提案する
- ・学習環境、物理またはバーチャル環境についての情報を報告する
- ・契約書または依頼に基づいた報告書を顧客に提出する

スコア	4	3	2	1
各スコアに該当する受験者のパフォーマンス例	<p>コース、インストラクター、受講者および組織の観点から、パフォーマンス全体を振り返って所見をまとめる。</p> <p>録画の記録から上記所見の証拠となる点を挙げる。</p>	<p>録画された活動や受講者の行動を根拠として挙げながら、学習目標の達成状況を説明する。</p> <p>学習目標の達成度を確認するために使用したツールを説明する。</p> <p>インストラクターとしての対応で良かった点と悪かった点を説明する。</p> <p>受講者のニーズに合うようにモジュールが修正された場合、修正がどの程度効果を上げたかを評価する。</p>	<p>学習目標の達成についての説明が表面的または不十分。</p> <p>コメントが、録画の中に見られる具体的な行動にリンクされていない。</p>	<p>発言に無関係、不適切、または不正確な点がある。</p> <p>書類に不備がある。</p>

# クラスルームトレーナー認定試験 (パフォーマンス・ベースド・テスト)

## パフォーマンス・ベースド・テスト録画の品質管理チェックリスト

CompTIA CTT+パフォーマンス・ベースド・テストの録画を提出する前に、以下のチェックリストを参照して品質のチェックを実施してください。これが入念な計画と準備を必要とする認定資格試験であることを忘れないでください。受験者から提出する録画は、17分～22分の長さで、インストラクターとしての受験者の言動を記録したものとなっていることが必要です。

これまでの実績から、合格する録画は品質においても優れている傾向が明らかになっています。セッションを高品質で録画できるように必要な対策を取っていただくことを、すべての受験者にお勧めします。

提出用に選んだセッションの録画を審査のために提出する前に、ご自身で視聴し、スコアリングガイドを参考に自身のパフォーマンスを採点してみてください。録画を視聴する際には、次の点を確認してください。

1. 録画された映像・音声の両方で、規定されたスキルがはっきり確認できますか？
2. 提出フォームの内容から、規定されたスキルがはっきり確認できますか？
3. 学習目標を説明し、それらを受講者と組織のニーズに対応させましたか？それがわかるのは具体的にどの部分ですか？
4. 学習しやすい雰囲気作りを行いましたか？それがわかるのは具体的にどの部分ですか？
5. 教授法の選定や導入を行いましたか？それがわかるのは具体的にどの部分ですか？
6. 教育媒体を活用しましたか？それがわかるのは具体的にどの部分ですか？
7. 専門家にふさわしい行動と学習内容への精通度を示しましたか？それがわかるのは具体的にどの部分ですか？
8. 効果的なコミュニケーションスキルとプレゼンテーションスキルを実践しましたか？それがわかるのは具体的にどの部分ですか？
9. 受講者中心の環境を作り、それを維持しましたか？それがわかるのは具体的にどの部分ですか？
10. さまざまな種類の質問や質問テクニックを効果的に使いましたか？それがわかるのは具体的にどの部分ですか？
11. 受講者のニーズに応じた説明の追加や励ましを行いましたか？それがわかるのは具体的にどの部分ですか？
12. 受講者の意欲を引き出し、強化しましたか？それがわかるのは具体的にどの部分ですか？
13. 講習全体を通して、受講者のパフォーマンス評価を行いましたか？それがわかるのは具体的にどの部分ですか？
14. トレーナーとしてのパフォーマンスと講習の実施状況を評価しましたか？それがわかるのは具体的にどの部分ですか？
15. 録画したモジュールには「起・承・結」がありますか？
16. そのモジュールの学習目標を明確に伝えましたか？
17. そのモジュールはきちんと構成されていましたか？
18. 室内には、少なくとも5人の成人受講者が映っていますか？
19. 受講者は主体的に講習に参加していましたか？
20. 音質は良好で、聴きやすい音量になっていますか？
21. 機器や電磁波のノイズ、周辺の交通、換気設備などの音により、録音が聴き取りにくい箇所はありませんか？
22. 録画の一時停止は一度までという規定を守っていますか？（複数回の停止を行った場合は、それが必要となった理由が提出フォームに詳しく説明されていますか？）
23. 講習で使用したグラフィック類は、判読が可能ですか？
24. 室内の明るさは適切ですか？
25. 採点委員に考慮してほしい要素を、すべて録画に反映できましたか？

- ・ 第三者に録画を見てもらい、評価してもらいましょう。
- ・ 提出する録画ファイルのバックアップを最低1つは作成しておきましょう。すべての提出物はCompTIAの所有に帰属し、受験者には返送されません。
- ・ 提出フォームも、すべてコピーを作成して保管しておきましょう。

# クラスルームトレーナー認定試験 (パフォーマンス・ベースド・テスト)

## パフォーマンス・ベースド・テストのリテイクポリシー

パフォーマンス・ベースド・テストに不合格と判定された受験者は、パフォーマンス・ベースド・テストを再度受験することができます。受験されたコンピューター・ベースド・テストの結果は、テストの内容/出題範囲が変更されない限りずっと有効です。パフォーマンス・ベースド・テストの再受験時に必要な提出物とそれらに関する規定は、初回受験時と同じです。

提出した録画への採点結果に関する上訴を希望する受験者から、上訴の請求がスコアレポートの発行から30日以内に行われた場合、CompTIAは独立した審査を行います。上訴を請求するには、正規の請求文書に100ドルの手数料を添えて送付してください。書面には、受験者の氏名、提出年月日、スコアレポート発行日、受験者のCompTIA Career ID（「COMP」から始まる番号）を明記してください。上訴請求の送り先：

CTT+ Submission  
C/O Ingenuiti  
2876 Guardian Lane  
Virginia Beach, VA 23452 USA

## 資格の更新

現行のCompTIAポリシーでは、CompTIA CTT+クラスルームトレーナー認定資格に更新の必要性はありません。

## リテイクポリシー

CompTIAのリテイクポリシー全文は、次のURLに掲載されています。  
[https://www.comptia.jp/cert\\_about/retakepolicy/](https://www.comptia.jp/cert_about/retakepolicy/)

## 認定資格試験実施ポリシー

認定資格試験の実施ポリシー全文は、次のURLに掲載されています。  
[https://www.comptia.jp/cert\\_about/policy/](https://www.comptia.jp/cert_about/policy/)